

再生・細胞医薬事業の合併会社 RACTHERA設立に関する説明会



住友化学 代表取締役社長 岩田 圭一
住友ファーマ 代表取締役社長 木村 徹

2024年12月17日

Change and Innovation
~ with the Power of Chemistry ~

長期的に目指す姿と各事業部門の位置付け

Innovative Solution Provider

～イノベーティブな技術で社会課題を解決する企業へ～



食糧

リジェネラティブ農業の実現

アグロ&ライフ
ソリューション



ICT

情報技術の革新

ICT&モビリティ
ソリューション



ヘルスケア

先端医療の普及

アドバンストメディカルソリューション



新成長領域

2030年以降に花開く
第3の柱として育成



環境

環境負荷低減社会の実現

エッセンシャル&グリーン
マテリアルズ



基盤領域

技術ライセンス主体の
ソリューション事業へ

位置
付け

成長ドライバー

農薬・半導体材料を中心に
当面の成長をけん引

再生・細胞医薬事業

市場

- 細胞治療の世界市場は約**20**億米ドル（2022年時点）
- 今後も年率**10～15%**での伸びが見込まれる

優位性

 Sumitomo Pharma



 住友化学

- 再生細胞のフロントランナーとしてのこれまでの活動を通じて獲得した技術・知見

- ◆ 世界初のiPS細胞由来製品の開発（パーキンソン病）
- ◆ 2021年10月 リサイミック承認（既に約40件の施術実績）（小児先天性無胸腺症）

- 工業化技術・分析技術・品質管理のノウハウに基づく開発支援

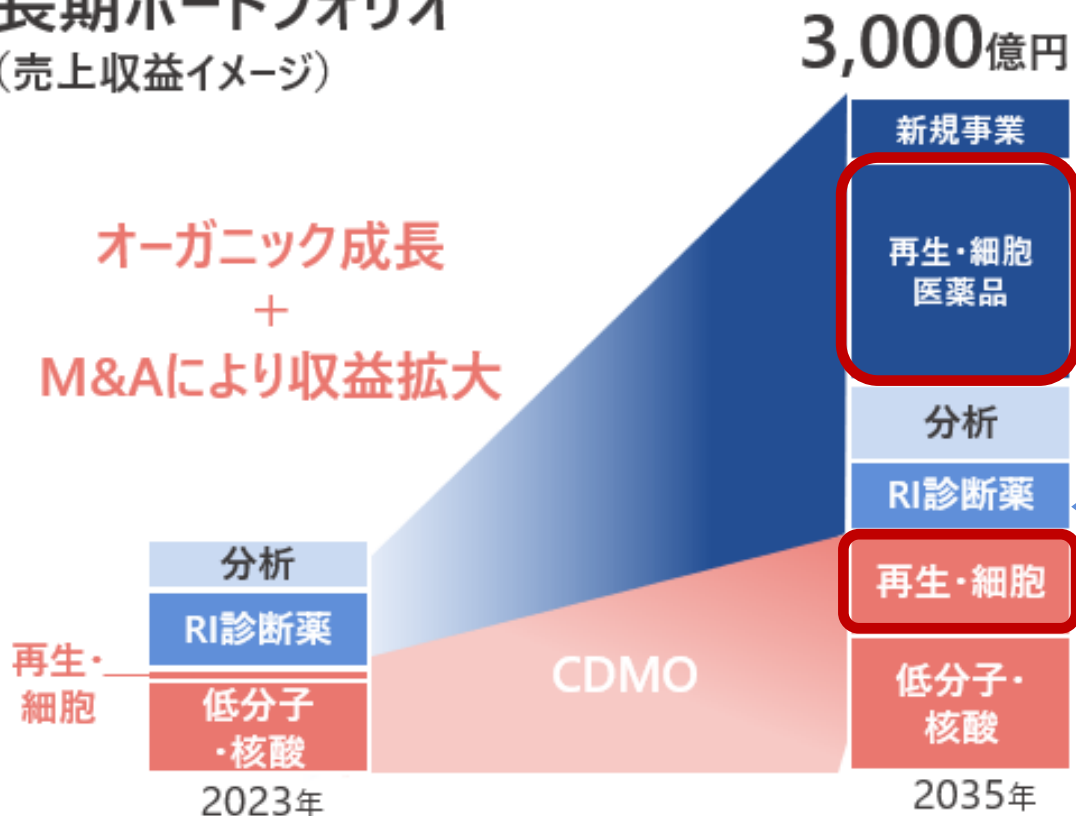
- 生物環境科学研究所・バイオサイエンス研究所でのリソース

住友化学グループを挙げ、開発・事業拡大を推進
2030年代後半に最大で約**3,500億円**[※]の事業規模を目指す

アドバンストメディカルソリューション部門の長期目標

アドバンストメディカルソリューション部門

長期ポートフォリオ (売上収益イメージ)



再生・細胞医薬事業

再生・細胞医薬品

CDMO (再生・細胞)

RI診断薬事業 (日本メジフィジックス) の売却

ベストオーナーの観点から再検討した結果、
GEヘルスケアへの売却を決定

2035年の売上目標3,000億円は、
RI診断薬事業なしで達成を目指す

(2024年4月30日経営戦略説明会より。再生・細胞医薬品は成功確率調整後)

注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。